

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	高知学園短期大学
設置者名	学校法人 高知学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
		全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
生活科学学科	夜・通信	2	4	26	32	7	
幼児保育学科	夜・通信			30	36	7	
医療衛生学科 医療検査専攻	夜・通信		29	31	10		
医療衛生学科 歯科衛生専攻	夜・通信		73	75	10		
看護学科	夜・通信		90	92	10		
専攻科応用生命科学専攻	夜・通信			9	9	4	
専攻科地域看護学専攻	夜・通信			41	41	4	
(備考)							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.kochi-gc.ac.jp/university/disclosure.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	高知学園短期大学
設置者名	学校法人 高知学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ事業報告書内にて公表
<http://www.kochigakuen.ed.jp/html/financialinfo.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社 役員	H30. 8. 31～ R2. 8. 30	学外の学識経験者から多様な意見を採り入れることにより、学校法人における管理運営機能の強化を図る
非常勤	特定医療法人 役員	H30. 8. 31～ R2. 8. 30	学外の学識経験者から多様な意見を採り入れることにより、学校法人における管理運営機能の強化を図る
(備考) 学外理事は3名以上であるが、2名を記載している。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	高知学園短期大学
設置者名	学校法人 高知学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画の作成過程 「高知学園短期大学シラバス作成要領」に基づいて担当教員が作成する。 教務課チェック、教務委員チェック、教務部長チェックの第三者チェックを行い、不備なければ承認、不備があれば差し戻しを教務課から教務委員を通じて担当教員へ修正依頼する ・ 授業計画の作成時期 12月～3月末に作成。学生には、4月に冊子で配付する。 ・ 授業計画の公表時期 5月1日 	
授業計画書の公表方法	http://www.kochi-gc.ac.jp/university/disclosure.html

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

高知学園短期大学では、各授業科目で到達目標を定め、その成績評価の基準を明確にして厳格かつ適正に評価している。その評価方法については、シラバスに記載し、学生へ周知している。特に、評価方法としては学則第 23 条に基づく試験やレポート等の具体的方法、またその評価に加え、学修意欲や授業への取組などに関する汎用的能力の評価を行い、その配分割合、および「どう学習すればよいか」が理解できる判定基準を具体的に記述している。成績評価基準は高知学園短期大学・学習成果査定の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいて各授業科目で定め、運用している。

単位の計算方法については学則第 22 条に定め、授業を欠席した場合には学則に定めた時間を満たすべく補講を行うこととなっている。授業時間外に必要な学習内容と時間数についても、シラバスに記載して指導し、教育の質保証に努めている。学習の評価に関しては、学則第 24 条で基準を定め、その具体的な指標を高知学園短期大学・学習成果査定の方針で表明し実施している。

学則及びシラバス、学生成果査定の方針等については、学生生活と履修の手引きに記載し学生への周知を図っている。

単位授与に当たっては、各授業科目の担当教員による成績評価を基に学長の承認を経て単位を認定している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

高知学園短期大学では「高知学園短期大学におけるグレード・ポイント・アベレージに関する規程」を定め、GPAを成績評価における客観的な指標として設定している。

本学では、ファンクショナル GPA による算出方法を採用している。その計算方法は以下の通りである。

試験の評点に応じたグレード・ポイント (GP) を算出する。

$$GP = (\text{評点} - 55) / 10$$

なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目は GP が 0.0 点となり、全履修科目単位数に含まれる。評点から置き換えられた GP については別表第 1 の通りである。

次に、GPA を以下の算出式で算出する。小数第 2 位以下を四捨五入する。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した教育科目の単位数} \times \text{履修登録した教育科目の GP}) \text{の総和}}{\text{履修登録単位数の合計}}$$

なお、再履修後、合格もしくは不合格だった場合、再履修前の単位数は総履修登録単位数から除外する。

別表第 1 評点をもと算出した GP

評点	GP	評点	GP
100	4.5	79	2.4
99	4.4	78	2.3
98	4.3	77	2.2
97	4.2	76	2.1
96	4.1	75	2.0
95	4.0	74	1.9
94	3.9	73	1.8
93	3.8	72	1.7
92	3.7	71	1.6
91	3.6	70	1.5
90	3.5	69	1.4
89	3.4	68	1.3
88	3.3	67	1.2
87	3.2	66	1.1
86	3.1	65	1.0
85	3.0	64	0.9
84	2.9	63	0.8
83	2.8	62	0.7
82	2.7	61	0.6
81	2.6	60	0.5
80	2.5	0~59	0.0

GPA の分布状況については、高知学園短期大学ファクトブック、FD 委員会や評議会等の学内会議で報告され、把握している。特に課題が見出された場合は、その対策を検討して改善に取り組むなど適切に実施している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.kochi-gc.ac.jp/university/disclosure.html>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)</p> <p>高知学園短期大学では、本学学生が「学習成果」を達成して人類の福祉と文化の進展に寄与していくため、本学における教育と学習を通じて以下の能力を獲得した者に短期大学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食・教育・医療それぞれの専門性における知識や技能を習得し、全学及び各学科・各専攻の教育目的に合致する資質と能力を獲得した者。 2. 本学が掲げるキャリア形成基礎力の四つの能力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身につけた者。 3. 人命を預かる責任感と倫理観を有し、世界や地域の動向を理解して 平和と友愛へ貢献するために専門的知識と技能を活用する実践力を備えた者。 4. 広い視野から人命を尊重するとともに、専門的知識や技能を活用しながら、多様な人々と協働し学び続ける力を有する者。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>http://www.kochi-gc.ac.jp/university/disclosure.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	高知学園短期大学
設置者名	学校法人 高知学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kochigakuen.ed.jp/html/financialinfo.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.kochigakuen.ed.jp/html/financialinfo.html
財産目録	http://www.kochigakuen.ed.jp/html/financialinfo.html
事業報告書	http://www.kochigakuen.ed.jp/html/financialinfo.html
監事による監査報告(書)	http://www.kochigakuen.ed.jp/html/financialinfo.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <http://www.kochi-gc.ac.jp/university/own.html>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <http://www.kochi-gc.ac.jp/university/third.html>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活科学学科
教育研究上の目的 (公表方法: http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html) (概要) 食・栄養に関わる専門的理論と技術を多様な講義や演習、実験・実習で習得し、総合的な学習経験を通して、健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を養い、さらにキャリア形成に対する意識を高め、食・栄養・健康の専門家としての情報発信ができる栄養士を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html) (概要) 生活科学学科では、次に掲げる資質を身につけた者に短期大学士(生活科学)の学位を授与する。 1. 食・栄養に関わる専門的知識を体系的に身につけ、健康の保持・増進に貢献する実践的な能力を備えた者。 2. 栄養士を基盤とした専門家としてのキャリア形成に対する意識を持ち、コミュニケーション能力と協働の姿勢を有し栄養と健康の情報発信力を身につけた者。 3. 平和と友愛の精神に基づいて、地域や医療・福祉等の組織の中で、連携・協働して健康で豊かな生活を実現する実践力を備えた者。 4. 総合的な学習経験を通して、食生活や食習慣の改善に寄与する実践的な能力を身につけるとともに、自ら課題を立て、その課題の解決に取り組むことができる者。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html) (概要) 生活科学学科では、食・栄養・健康に関する幅広い知識と実践的な技術を備え、社会で活躍できる栄養士を養成するための教育課程を編成し、特に以下に掲げる目標を達成するための教育を実施する。 1. 栄養士として実践に役立つ専門知識と実験・実習を通して実務能力を1年次から習得し、さらに給食管理実習・栄養教育実習等の学外実習を通して実践力を養う教育課程を編成し、実施する。 2. 社会の動向に対して適切に対応するため、広い視野から食と健康を考えることができる栄養士や栄養教諭を養成するため、多様な分野から教養教育を構成し、専門教育による体系的編成と関連づけながら専門性の強化を図る教育を実施する。 3. 社会におけるさまざまな食の問題を健康の観点から解決するため、授業で学習する内容と授業以外で学習する内容を結びつけて理解を深める教育課程を編成することで、栄養の重要性を理解し、自ら計画を立てて主体的に取り組む教育を実施する。 4. 実験・実習科目では、グループ単位の少人数教育・指導・支援体制を強化し、学生一人一人が主体的に学べるように十分な学習時間を確保しながら教育を実施する。 以上の方針の下、獲得された学習成果を生活科学学科・学習成果査定の方針に基づいて客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html>)

(概要)

生活科学学科では、食の分野から健康で豊かな生活に貢献するため、①学習へ熱心に取り組む人、②学習内容を活用して実践力を高めようとする人、③食と栄養および健康に強い関心を持ち食・栄養に関わる理論と技術を身につけることができる人、④仲間とともに自己成長を目指すことができる人が求められる。そのため、すべての入学者選抜制度に共通して以下の準備ができている人を入学者として求めている。

1. 学習に取り組む謙虚な態度を有する人。
2. キャリア形成に対する意識を持ち、コミュニケーション能力を有する人。
3. 将来への目的意識が高く、健康で豊かな生活を心がけ実践している人。
4. 基礎的な学力と協調性を備え、たゆまぬ努力を継続でき、多様な人々と協働しながら、主体的に学ぶことができる人。

以上の人材として、生活科学学科では、入学するまでに、次の教科・科目の内容や知識・技能を有していることが望まれる。

◎国語：国語を適切に表現し的確に理解するとともに伝え合う力

◎数学：事象を数学的に考察し、それらを活用する態度と能力

◎理科：化学・生物の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方ができる力

◎地理歴史・公民：歴史と生活・文化の地域的特色について理解し、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者となる力

◎外国語：言語や文化に対して理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度・能力

◎情報：社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化社会の進展に主体的に対応できる能力

◎家庭：栄養・食品・調理及び食品衛生などについて科学的に理解し、食生活の文化に関心を持ち、主体的に食生活デザインを営む力

◎保健体育：健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む力

入学者の選抜にあたっては、入学者選抜制度に基づき、提出書類や面接等による試験を通じて「健康への関心を抱き、明確な目標をもって主体的に学ぶ意欲と態度を有すること」、及び基礎学力検査や学力試験等を通じて「健康の保持・増進に貢献するよう興味・関心の向上に努めること」を総合的に評価し、上記の方針に適した人を選抜する。

入学者選抜の各制度では、特に以下の準備ができている人を重視して選抜を行う。

◆特別推薦選考

面接及び提出書類の評価を通して、模範的な学校生活と社会性を有し、学力基準を満たし、食と栄養および健康に強い関心を持ち、健康の保持・増進に貢献する意欲のある人を選抜する。

◆自己推薦選考 A・B

自己推薦書や面接及び提出書類の評価を通して、自ら目標をもって主体的に学習に取り組む、食と栄養および健康に強い関心を持ち、健康の保持・増進に貢献する意欲のある人を選抜する。

◆推薦選考

国語・数学Ⅰ・化学基礎・生物基礎・英語いずれかの科目による基礎学力検査、面接及び提出書類の評価を通して、確かな学習習慣があり、食と栄養および健康に強い関心を持ち、健康の保持・増進に貢献する意欲のある人を選抜する。

◆試験選考 A

国語・数学Ⅰ・化学基礎・生物基礎・英語いずれかの科目による学力試験、面接及び提出書類の評価を通して、確かな学力があり、食と栄養および健康に強い関心を持ち、健康の保持・増進に貢献する意欲のある人を選抜する。

◆試験選考 B

小論文や面接及び提出書類の評価を通して、食と栄養および健康に強い関心を持ち、健康の保持・増進に貢献する意欲のある人を選抜する。

◆社会人選考

小論文や面接及び提出書類の評価を通して、社会における経験を活かし、食と栄養および健康に強い関心を持ち、健康の保持・増進に貢献する意欲のある人を選抜する。

◆留学生選考

作文や面接及び提出書類の評価を通して、日本語による読解力と会話力を備え、食と栄養および健康に強い関心を持ち、健康の保持・増進に貢献する意欲のある人を選抜する。

学部等名 幼児保育学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>幼児たちの集団生活を育む教育・保育に必要な知識と技術を習得し、愛情に満ちた豊かな人間性を持つとともに、特に附属高知幼稚園などにおける豊富な実習の体験を通して、新たな幼児保育理論を備えた実践力を有する幼稚園教諭、保育士及び保育教諭を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>幼児保育学科では、平和と友愛の精神に則り、次に掲げる資質を身につけた者に短期大学士（幼児保育学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者に必要な専門的知識及び基本的技能を身につけた者。 2. 広い教養と専門性から社会的状況を分析しながら人命を預かる責任感を身につけた者。 3. 子どもの健やかな成長を願う豊かな人間性を身につけた者。 4. 社会の諸問題に対して、子どもの教育・保育に基づいた考えをまとめ、表現し、行動することができる者。
教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>幼児保育学科では、幼稚園教諭と保育士、保育教諭を養成するための教育課程を基本とし、保育を通して世界の平和と友愛に貢献するために有益な教養教育と専門教育の教育課程を編成し、特に以下に掲げる目標を達成するための教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育・保育における応用的・実践的な理論・技能への発展性と一貫性を理解する総合的な教育課程を編成することで、保育者として果たす責務を認識し、専門性を向上する教育を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・保育の領域について、領域それぞれの学問的背景や基盤となる考え方を学ぶため、「教育及び保育の領域」の分野を編成し、保育内容に基づいて子どもを理解する教育を実施する。 ・教育・保育の理念や子どもの心身の発達に寄与する役割を自覚するため、「教育及び保育の本質・目的・対象の理解」の分野を編成し、子どもの発達に基づいて保育の重要性を考える教育を実施する。 ・教育・保育を通じて育みたい資質・能力を子どもの生活から捉えるため、「教育及び保育の内容・方法」の分野を編成し、子どもの生活の中から幼児保育学の基礎理論や表現技術、指導の方法を身に付ける教育を実施する。 ・食・教育・医療の各専門分野と連携して、子ども理解を深める保育者を養成するため、「総合的専門科目」を編成して、子どもの健康を多様な視点から考え、他の専門分野と学科横断的に連携する教育を実施する。 ・教育・保育の現場で子どもの最善の利益を尊重する姿勢を育てるため教育実習・保育実習の分野を編成し、専門的理論及び技能を正しく活用した保育実践力を養う教育を実施する。 2. 常に教育・保育に関する新しい問題に向かって、原因を究明しながら成長できる専門的職業人を養成するため、授業で学習する内容と授業以外で学習する内容を結びつけて理解を深める教育課程を編成し、子どもの心身の発達を理解し主体的に学ぶことのできる教育を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果を適切にフィードバックする教育を実施するため、学修ポートフォリオを導入して学生が自らの学びをふり返り、目標を立てて達成度を確認できるようにする。

3. 教養教育では、倫理的な責任感に基づいて広い視点から保育の意義を考え実践するための教育を実施する。

- ・グローバルな視点から子どもの成長を考え、多様な文化を尊重する保育者を育成するため、教養教育に「芸術と文化」の分野を編成し、外国語や文学及び文化の基礎的理解を深める教育を実施する。
- ・科学的思考に基づき、あらゆる問題を幅広い視野から思考できる保育者を育成するため、教養教育に「社会と自然」の分野を編成し、多様な人々と協働し理解しあえるコミュニケーション能力と情報を収集する力を育む教育を実施する。
- ・子どもの健康を支え、自らが主体性をもって活動に取り組むため、教養教育に「運動と健康」の分野を編成し、スポーツや体験を通して健康と運動の関連について理解を深めるための教育を実施する。

4. 日常生活におけるさまざまな問題を幼児保育の観点から発見し、問題を積極的に解決しようとする意欲と姿勢を持った専門的職業人を養成するため、基礎から応用・実践へと段階的に発展する教育課程を編成し、学生自ら目標を立てて主体的に取り組む教育を実施する。

以上の方針の下、獲得された学習成果を幼児保育学科・学習成果査定の方針に基づいて客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針
 (公表方法：<http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html>)

(概要)

幼児保育学科では、卒業認定・学位授与の方針にかなうために、①あらゆる教育科目に精一杯取り組む人、②常に模範的な行動と態度を心がける人、③目標を達成するまで絶対にあきらめない人、④人々と協力しあいながら自分自身と仲間の成長を志す人が求められる。そのため、すべての入学者選抜制度に共通して以下の準備ができている人を入学者として求めている。

1. 全般的な基礎学力を有する人。
2. 規律を守る人。
3. 大学生生活を最優先に考えた基本的な生活習慣を確立している人。
4. 多様な人々とのコミュニケーションを大切にすることができる人。

以上の人材として、幼児保育学科では、入学するまでに、次の教科・科目の内容や知識・技能を有していることが望まれる。

- ◎国語：日本語による文章を論理的に正しく読み解き、自分の考えを明確に表現し、的確に伝える力
- ◎数学：物事をデータ等に基づいて論理的・客観的に思考できる力
- ◎理科：自然現象や環境について客観的に観察し、論理的に思考する力
- ◎地理歴史・公民：個人と社会を取り巻く多様な状況と変化を理解し、社会の仕組みに対応していく力
- ◎外国語：外国の人々・文化・社会に対する関心と交流に必要な英語の読解、表現、作文、会話に関する基礎的技能
- ◎情報：パソコンの基本ソフトを活用する力
- ◎音楽：バイエル・ピアノ教則本 No. 80 程度の楽譜を演奏する力とコールユーブンゲン原書 No. 29 程度の音階を正しく読み解き歌唱する力
- ◎美術・書道・工芸：作品を鑑賞し、自らの手で構想し創造しながら表現するなど、芸術表現に関わる基本的な能力
- ◎保健体育：健康や心身の発達の特徴に関する理解、活動に対して主体的に取り組む姿勢、及び基礎的な運動能力

入学者の選抜にあたっては、入学者選抜制度に基づき、提出書類や面接等による試験を通じて「幼児保育への関心を抱き、明確な目標をもって計画的かつ継続的に学ぶ意欲と態度を有すること」、及び基礎学力検査や学力試験、実技試験等を通じて「思

考力や判断力を中心に、知識や技能、論理力や応用力を含む基礎学力と実技の基礎的な表現力の向上に努めること」を総合的に評価し、上記の方針に適した人を選抜する。

入学者選抜の各制度では、特に以下の準備ができている人を重視して選抜を行う。

◆特別推薦選考

面接及び提出書類の評価を通して、模範的な学校生活を送り、幅広い学力と表現力、社会性を備え、幼児保育に必要な適性を高めるよう意欲的かつ継続的に努めることができる人を選抜する。

◆自己推薦選考 A・B

自己推薦書や面接及び提出書類の評価を通して、幼児保育の専門性を活かして社会に貢献する意欲と目標を抱き、その実現に向けてたゆまぬ努力をすることができる人を選抜する。

◆推薦選考

国語による基礎学力検査やピアノ・歌唱による音楽実技試験、面接及び提出書類の評価を通して、確かな学習習慣を形成し、豊かな表現基礎力を有する人を選抜する。

◆試験選考 A

国語による学力試験やピアノ・歌唱による音楽実技試験、面接及び提出書類の評価を通して、保育を実践し記録をまとめるために必要な一定の学力と豊かな表現基礎力を有する人を選抜する。

◆試験選考 B

小論文や面接及び提出書類の評価を通して、基礎学力を通じた論理力や幼児保育への応用力が豊かな人を選抜する。

◆社会人選考

小論文や面接及び提出書類の評価を通して、一定の学力と社会における経験を有意義に活用して、幼児保育に対する問題意識と高い関心を有し、他の模範となって学び続ける意欲を備えている人を選抜する。

◆留学生選考

作文や面接及び提出書類の評価を通して、日本語による読解力と会話力を備え、幼児保育を通じて母国と日本の発展に貢献しようとする意欲、及び国際的視野に基づく目標と計画を有する人を選抜する。

学部等名 医療衛生学科 医療検査専攻
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 医学および臨床検査に関する講義・実習・演習を通して、生命の仕組みと疾病の成り立ち及び予防に関する専門的知識と技術を習得するとともに、健康維持・増進の重要性を理解し、高度化・多様化する現代医療に貢献できる実践力を備えた臨床検査技師を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 医療検査専攻では、学生が現代医療に貢献できるように、本専攻の教育と学習を通じて「学習成果」を達成し次の能力を獲得した者に短期大学士（臨床検査学）の学位を授与する。 1. 臨床検査技師に求められる基本的な知識と技術を習得した者。 2. 臨床現場の中で医療チームの一員として活躍できる幅広い実践力と問題解決能力を身につけた者。 3. 医療従事者としての豊かな人間性、倫理観を有し、臨床検査学の知識と技能を活用できる者。 4. 広い視野から人命を尊重するとともに、自らの役割を果たすためのコミュニケーション力を身に付け、多様な人々と協働し学び続ける力を有する者。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 医療検査専攻では、学生が「卒業認定・学位授与の方針」にかなう能力を獲得することによって、現代医療に貢献できる臨床検査技師を養成するために、以下の方針に基づいて教育課程を編成し、実施する。 1. 基礎、専門基礎分野の教育課程を編成し、広い視野から医療従事者に必要な知識と技術を習得できる教育を実施する。さらに専門分野の講義・実習をとおして臨床検査技師に必要な専門的知識と技術を習得できる教育課程を編成し実施する。 2. 専門分野の講義・実習・演習をとおして総合的な病態解析能力 を身につけ、医療の進歩及び公衆衛生の向上に貢献できるための教育課程を編成し実施する。 3. 豊かな人間性を養うために基礎分野に生命倫理などの教育課程を編成する。また、専門分野の実習や演習においてはグループによる学習を重視した教育課程を編成し実施する。 4. 臨床現場に身を置き、実際の日常業務を体験することで、臨床検査技師としての役割と責任を自覚し、コミュニケーション力を高めることができる教育課程を編成し実施する。 以上の方針の下、獲得された学習成果を医療衛生学科医療検査専攻・学習成果査定の方針に基づいて客観的に評価する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 医療衛生学科医療検査専攻では、卒業認定・学位授与の方針にかなうために、①臨床検査学を学ぶための学力と意欲がある、②医療に関心があり臨床検査技師を目指している、③思いやりと協調性がある、④自己の考えを持ち人間関係を円滑に結べる人物を求める。そのため、すべての入学者選抜制度に共通して以下の準備ができている人を入学者として求めている。 1. 医学や臨床検査学を学ぶために必要な基礎学力を有し、学習意欲を継続できる人。 2. 生命科学や医療に強い関心を持ち、将来、臨床検査技師として社会貢献できる人。 3. 強い意志を持つとともに思いやりと協調性を有する人。

4. 医療の対象者及び医療従事者と適切なコミュニケーションをとり、多様な人々と協働しながら自らの役割を果たすことができる人。

以上の人材として、医療衛生学科医療検査専攻では、入学するまでに、次の教科・科目の内容や知識・技能を有していることが望まれる。

◎国語：基礎的な日本語の読解力、表現力、論理的な思考力

◎数学：一次関数・二次関数、対数、指数、三角関数など論理的な思考力、数的な処理能力

◎理科：自然現象に対する科学的な思考力・判断力

（化学基礎）物質の構成粒子、物質と化学結合、物質と化学変化、酸と塩基、酸化と還元など

（生物基礎）生物の特徴、遺伝子とその働き、体内環境の維持など

（物理基礎）力とエネルギー、熱・圧力、波・音、電気・電子、原子・原子核など

◎地理歴史・公民：変動する社会に対応できる基礎的知識と応用力

◎外国語：目的に応じた英語文章の読解力と表現力、異文化への理解

◎情報：情報に関する科学的思考力・判断力、及び情報機器等を正しく活用する基礎力

◎保健体育：身体の発達と健康についての理解力

入学者の選抜にあたっては、入学者選抜制度に基づき、提出書類や面接等による試験を通して「医療及び臨床検査への関心を抱き、明確な目標をもって計画的かつ継続的に学ぶ意欲と態度を有すること」、また基礎学力検査や学力試験を通して「医療及び臨床検査を学ぶための思考力、判断力、表現力などの基礎学力を備え、継続して自己の向上に努めることができる能力」を総合的に評価し、上記の方針に適した人を選抜する。

入学者選抜の各制度では、特に以下の準備ができている人を重視して選抜を行う。

◆特別推薦選考

面接及び提出書類の評価を通して、模範的な学校生活を送り、幅広い学力と社会性を備え、臨床検査技師への明確な目標をもって計画的、継続的に学ぶ意欲を有する人を選抜する。

◆自己推薦選考 A・B

自己推薦書、面接、提出書類の評価を通して、活発な学生生活を送り、幅広い学力と臨床検査への持続的な強い意志と医療及び公衆衛生の向上に貢献する意欲に満ちている人を選抜する。

◆推薦選考

基礎学力検査（英語、化学基礎、生物基礎、数学Ⅰ）、面接、提出書類を通して、医学や臨床検査学を学ぶために必要な学習習慣を確立し、態度、意欲、社会性を有する人を選抜する。

◆試験選考 A

学力試験（英語、化学基礎、生物基礎、数学Ⅰ）、面接、提出書類を通して、医学や臨床検査学を学ぶために必要な学力、態度、意欲、社会性を有する人を選抜する。

◆試験選考 B

小論文、面接、提出書類を通して、医学や臨床検査学を学ぶために必要な論理力、思考力、判断力を有し、態度、意欲、社会性を有する人を選抜する。

◆社会人選考

小論文、面接、提出書類を通して、医学や臨床検査学を学ぶために必要な論理力、思考力、判断力を有し、社会に対する問題意識と高い関心をもち、社会経験を有意義に活用できる人を選抜する。

◆留学生選考

日本語による読解力と会話力を備え、臨床検査学を活用して母国と日本の発展に貢献しようとする意欲、及び国際的視野に基づく目標と計画を有する人を選抜する。

学部等名 医療衛生学科 歯科衛生専攻
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 多様な講義・演習・実習を通して専門的な知識と技術を習得し、豊かな人間性と倫理観を兼ね備え、専門的職業人として生涯にわたり自己研鑽し、口腔衛生管理・健康支援ができる歯科衛生士を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 医療衛生学科歯科衛生専攻では、学習成果に基づき、口腔衛生管理の専門職になるために次に掲げる資質を身につけた者に短期大学士（歯科衛生学）の学位を授与する。 1. 豊かな人間性と倫理観を持ち、人を敬い傾聴する姿勢を身につけた者。 2. 保健・医療・福祉を総合的に捉え、良好な人間関係を構築しながら地域および他職種と協働・連携することができる者。 3. 根拠に基づいた全体的観点から口腔衛生管理・支援することができる知識と技術を身につけた者。 4. 将来に向けてのミッションを持ち、考えを広げ学び続ける意欲と課題解決をまとめプレゼンテーションできる能力を有する者。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 医療衛生学科歯科衛生専攻では、広い教養と良識のある歯科衛生士を育成するための教育課程を編成し、歯科医療の高度化と多様なニーズに対応するための知識と技能を習得することを基本とし、以下に掲げる目標を達成するための教育を実施する。 1. 基礎分野教育課程を編成することで良好な人間関係を構築するために科学的思考の基礎および人間と生活に必要な教育課程を編成し、豊かな人間性、コミュニケーション力を養うための教養教育を実施する。 2. 専門基礎分野教育課程を編成することで人体の構造と機能および疾病の成り立ちと予防など基本的知識を習得するとともに健康に関わる社会の仕組みを理解するために必要な教育課程を編成し、基本的な専門基礎教育を実施する。 3. 専門分野教育課程を編成することで口腔に関わるより専門的な知識と技術を習得するとともに、保健医療人としての基本的な態度・論理的思考に必要な教育課程を編成し全人的視点からの口腔の健康支援ができる専門教育を実施する。 4. 選択必修分野教育課程を編成することで他職種と協働・連携の重要性を理解するために必要な教育課程を編成し、3年間のまとめとして健康教育での学びをプレゼンテーションする力を高める自主的な教育を実施する。 以上の方針の下、授業で学習する内容と授業外で学習する内容を結びつけて理解を深める教育を体系的に編成して実施し、獲得された学習成果を医療衛生学科歯科衛生専攻・学習成果査定の方針に基づいて客観的に評価する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 医療衛生学科歯科衛生専攻では、卒業認定・学位授与の方針にかなうために、①気持ちを共有することができる人、②話を聞くことができる人、③歯科衛生学を学ぶ意欲がある人、④協調性があり、協働できる人が求められる。そのため、すべての入学者選抜制度に共通して以下の準備ができている人を入学者として求めている。 1. 明朗活発で傾聴できる人。 2. 倫理観を身につけ他職種と協調性を持ち歯科医療を担うという職業的使命感を有する人。

3. 前向きな姿勢と自主性があり学習意欲のある人。

4. 専門職として学び続ける意欲があり、生命の尊さや喜びを感じることができる人。

以上の人材として、医療衛生学科歯科衛生専攻では、入学するまでに、次の教科・科目の内容や知識・技能を有していることが望まれる。

◎国語：読書の習慣を養い、文章から論理を読み取る読解力

◎数学：問題を解決していく過程での論理的な思考力

◎理科：自然現象に対する科学的な思考力・判断力

(化学基礎) 化学反応と物質、イオン結合とイオン結晶

(生物基礎) 生物の特徴、代謝、遺伝子情報、体内環境と恒常性

(物理基礎) 電気・電子、原子・原子核など

◎地理歴史・公民：社会の動向を理解し、的確に対応する知識と教養

◎外国語：異文化理解、コミュニケーション力

◎情報：情報機器等を正しく活用する基礎力

◎芸術：感性や最後までやり遂げる力

◎保健体育：健康の保持増進と安全についての理解力

入学者の選抜にあたっては、入学者選抜制度に基づき、提出書類や面接等による試験を通じて「学校生活での活動や計画的な将来への目的意識」及び基礎学力検査や学力試験等を通じて「基礎学力、表現力」を総合的に評価し、上記の方針に適した人を選抜する。

入学者選抜の各制度では、特に以下の準備ができている人を重視して選抜を行う。

◆特別推薦選考

面接及び提出書類の評価を通して、学校生活での活動に対しての積極性や目的意識の高い人を選抜する。

◆自己推薦選考 A・B

自己推薦書や面接及び提出書類の評価を通して、目的意識が高く、社会貢献に対しても意欲的な人を選抜する。

◆推薦選考

国語、英語、化学基礎、生物基礎、数学 I のいずれかによる基礎学力検査、面接及び提出書類の評価を通して、必要な思考力や判断力及び学習意欲を有する人を選抜する。

◆試験選考 A

国語、英語、化学基礎、生物基礎、数学 I のいずれかによる学力試験、面接及び提出書類の評価を通して、必要な学力及び目的意識のある人を選抜する。

◆試験選考 B

小論文や面接及び提出書類の評価を通して、思考力及び表現力を有する人を選抜する。

◆社会人選考

小論文や面接及び提出書類の評価を通して、社会情勢に関心を持ち、主体性のある人を選抜する。

◆留学生選考

作文や面接及び提出書類の評価を通して、歯科衛生士に対する理解と日本語の読解力及び学習意欲のある人を選抜する。

学部等名 看護学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>専門的知識・技術を教授し、科学的・論理的思考を養い、かつ演習や実習を通じて実践能力を身につけ、社会の健康課題を人々と共に解決し、人々の健康と生活の質の向上に貢献できる豊かな人間性・創造性・主体性をもった看護専門職者を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>看護学科では、人々の健康と生活の質の向上に貢献できる看護専門職者を目指し、次の要件を満たすと認められる者に短期大学士（看護学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の専門的知識や技能を習得し、根拠に基づいた看護を実践する能力を有している。 2. 看護専門職者としての倫理観をもち、対象を尊重した看護を実践する能力を有している。 3. 学習と体験を統合し、対象の健康レベルと生活の質の向上のために深く思考する能力を有している。 4. 他者との協働関係を構築するために、自己を客観的に理解し、表現する能力を有している。 5. 看護の価値を見出し、生涯学び続ける力を有している。
教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>看護学科では、社会の健康課題を人々と共に解決し、人々の健康と生活の質の向上に貢献できる豊かな人間性・創造性・主体性をもち、学習成果に示した能力を有する看護専門職者を養成するため、以下の方針に基づいて教養教育と専門教育の区分を柱とした教育課程を編成し、教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間や社会の営みをグローバルな視点から理解するための「社会と自然」、「芸術と文化」に関する科目、および人間の健康的な生活を理解するための「運動と健康」に関する科目を教養教育科目として教育課程を編成し、豊かな人間性を培い、看護学の基盤となる様々な学問領域における知識や教養を身につけるための教育を実施する。 2. 個人、家族、地域社会それぞれの健康レベルに応じ、倫理的視点をもちながら根拠に基づいた看護を実践するために、専門教育科目では系統的かつ基礎から応用・統合へと段階的に学習する教育課程を編成し、学習と体験を統合した思考ができる教育を実施する。 3. グループワークやロールプレイなどの演習を含む科目や実習科目を通して、各々の価値観を尊重しながら倫理的態度で他者と関わる力を有する看護専門職者を養成するための教育を実施する。 4. 看護統合分野では、それまでの学びを統合するとともに、課題を探求・考察する能力を育てるための教育課程を編成し、学生自らが主体的に学ぶことができる教育を実施する。 <p>以上の方針の下、獲得された学習成果を看護学科・学習成果査定の方針に基づいて客観的に評価する。</p>

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html>)

(概要)

看護学科では、豊かな人間性と倫理観に基づき、看護の知識や技術を活用して自ら判断し行動できる看護専門職者の養成を目指しており、卒業認定・学位授与の方針を達成するために、すべての入学者選抜制度に共通して以下の準備ができている人を入学者として求めている。

1. 他者および自己のこころと身体健康、生活に関心がある人。
2. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を有し、自ら学ぶ意欲と態度、習慣を備えている人。
3. 積極的に物事に取り組み、自分の力を高めていける人。
4. コミュニケーションを大切にし、他者と共に成長できる人。
5. 社会の一員としての意識を高くもつことができる人。

以上の人材として、看護学科では入学するまでに次の教科・科目の知識・技能を有している人が望まれる。

◎国語：基礎的な日本語の文章の読解力、相手の話を聴く力、相手に伝わる表現力

◎数学：論理的な思考力、看護に必要な課題達成のための数的な処理能力

◎理科：人間の身体の構造や仕組みを理解し、看護を実践するために必要な基礎的な科学の知識

◎地理歴史・公民：個人を取り巻く社会の状況、仕組みを理解し、社会の変化を読み解くための基礎知識

◎英語：看護に必要な英語を学ぶための基礎的な読解力と表現力、異文化理解

◎情報：情報モラルを身に付け、必要な情報を収集・整理・活用できる能力

◎保健体育：健康について多面的な側面から考えることができる基礎知識、健康で安全に生活するための知識・技能

入学者の選抜にあたっては、入学者選抜制度に基づき、提出書類や面接、小論文、基礎学力検査や学力試験等を通して、看護への関心を抱き、明確な目標をもって計画的かつ継続的に学ぶ意欲と態度を有すること、看護を学ぶために必要な基礎知識や論理的な思考力、表現力を備えていることを総合的に評価し、上記の方針に適した人を選抜する。

入学者選抜の各制度では、特に以下の準備ができている人を重視して選抜を行う。

◆特別推薦選考

面接、提出書類の評価を通して、模範的な学校生活を送り、幅広い学力と表現力、社会性を備え、看護への適性を高めるよう意欲的かつ継続的に努力することができる人を選抜する。

◆自己推薦選考 A・B

自己推薦書、面接、提出書類の評価を通して、看護の専門性を活かして社会に貢献する意欲と目標をもち、主体的に学習に取り組むことができる人を選抜する。

◆推薦選考

国語・英語・化学基礎・生物基礎・数学 I のいずれかによる基礎学力検査、面接、提出書類の評価を通して、意欲的に学校生活を送り、社会性と確かな学習習慣を形成している人を選抜する。

◆試験選考 A

国語・英語・化学基礎・生物基礎・数学 I のいずれか 1 科目及び小論文による学力試験、面接、提出書類の評価を通して、看護学を学ぶために十分な学力と社会性を備え、論理的な表現力を有する人を選抜する。

◆試験選考 B

小論文、面接、提出書類の評価を通して、基礎学力を有し、社会性を備え、論理的思考をもち、豊かな表現力を有する人を選抜する。

◆社会人選考

小論文、面接、提出書類の評価を通して、看護に対する高い関心を有し、一定の学力と社会における経験を有意義に活用して、他の学生の模範となって学び続ける意欲を備えている人を選抜する。

◆留学生選考

作文、面接、提出書類の評価を通して、看護学科での授業や演習、実習に参加できるだけの日本語による日常会話力、読解力、記述力を備え、看護を通じて母国と日本の発展に貢献しようとする意欲を有する人を選抜する。

学部等名 専攻科応用生命科学専攻
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 臨床検査技師養成教育を受け、習得した専門知識と技術を活用し、幅広い教養と実践力を養い、生命科学分野から保健医療分野まで広く応用できる問題解決能力を有した人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 専攻科応用生命科学専攻では、生命科学や保健医療の分野で貢献できる人材となるために次の能力を習得したものに対し、修了認定を行う。 1. 生命科学・保健医療分野の高度な専門的知識や技術を習得した者。 2. 自ら行った実験・研究を通じ、問題解決に必要な知識・技術を融合的に応用できる能力を養い、研究論文作成法を習得できた者。 3. 生命科学・保健医療を学び活用する者として、責任感と倫理観を有し、それを実践できる者。 4. コミュニケーション能力を培い、他者と適切な人間関係を築くことにより、医療に携わる者としての資質を備えた者。 (学位授与) 専攻科修了者のうち、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が定める要件を満たした者には、学士(保健衛生学)の学位が授与される。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 専攻科応用生命科学専攻では、学位授与認定の目的を達するため、次のようなカリキュラムを編成し、実施する。 1. 高度な医療技術者であるとともに応用力のある人材を育成するため、生命科学・保健医療分野の幅広いカリキュラムを編成し、専門的職業人として備えるべき素養と実践力を習得できる教育を実施する。 2. 修了研究として各研究分野のテーマに取り組むことにより、それまでに学習した理論、知識、技術を複合・融合的に駆使し、課題探求能力を主体的に習得できる教育を実施する。 3. 生命倫理に関する知識を基盤として、移植医療・生殖医療・遺伝子解析などの分野や、修了研究において、対象者への倫理的配慮を習得できる教育を実施する。 4. ゼミ形式の授業や修了研究において発表を行うことで、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を習得できる教育を行う。 以上の方針の下、獲得された学習成果を専攻科応用生命科学専攻・学習成果査定の方針に基づいて客観的に評価する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html)
(概要) 専攻科応用生命科学専攻では、卒業認定・学位授与の方針を達成するために、①臨床検査学の基礎的知識・技術を活用し、さらに高度なレベルを目指す人、②論理的思考を展開できる人、③目的を持ち主体的に努力する人、④協調性に富み、社会・医療への貢献の意識が高い人が求められる。そのため、すべての入学者選抜制度に共通して、以下の準備ができていない人を入学者として求めている。 1. 臨床検査学の基礎的な知識・技術を有し、さらに高度な専門的知識・技術を学びたい人。 2. 自ら学び、課題を探究し、解決する論理的な思考力を備えた人。

3. 明確な目的意識を持ち、意欲と主体性を持って勉学に励み、努力を継続できる人。
4. 他の人と協調して社会や医療の対象者に貢献する意欲のある人。

以上の人材として、専攻科応用生命科学専攻では、入学するまでに、「臨床検査技師学校養成所指定規則」別表に掲げられた教育内容の理解を前提とし、特に次の科目の内容や知識・技能を深めることが望まれる。

化学・生物学・物理学：生命科学分野の教科の理解力

◎外国語：英語の文献や実験プロトコールの読破力

◎生命倫理に関する分野：移植医療、生殖医療、遺伝子医療を学び、修了研究を遂行する上での倫理的配慮ができる判断力や応用力

入学者の選抜にあたっては、入学者選抜制度に基づき、入学者受け入れの方針を満たしていることを評価するため、書類選考と面接を実施する。

◆入試 A・B

国家試験合格のレベルに達する臨床検査学の基礎的知識の習得を判定するため、臨床検査技師学校養成所における成績を書類で評価し、専攻科入学の目的と意欲や社会・医療への貢献の意志を面接で確認することで入学者を選抜する。

学部等名 専攻科地域看護学専攻
教育研究上の目的（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>看護師としての学修内容の上に、公衆衛生看護学の知識体系を積み上げ、個人・家族・集団・組織からなる地域社会全体の健康レベルの向上のために、広い視野と洞察力をもち創造性豊かに他者と協働することができる看護職者を養成する。さらに、修了研究を通して課題発見力や論理的な思考力、表現力を身につけ、看護学の発展に寄与するための基礎的能力を養う。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>専攻科地域看護学専攻においては、地域で生活している人々の健康増進を目指すと共に地域全体の健康レベルの向上に貢献できる看護職者として活躍するため、以下に示す知識と技能、態度を習得した者に課程修了を認定する。加えて独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が定める要件を満たした者には、学士（看護学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の生活と健康に関する解剖生理学的知識や行動心理学的知識、公衆衛生看護学の知識を基盤に、多様な背景をもつ対象者の主体性や価値観を尊重して信頼関係を築き、行動変容に導くことのできる能力を有する。 2. 国や地方自治体が掲げる健康施策の理解と将来的な予測に基づき、地域の健康課題を明確にし、他者と連携・協働しながら組織的に課題を解決するための企画力や調整力を有する。 3. 研究テーマについての文献検討と論文作成、プレゼンテーションを通して論理的思考力や表現力を高め、看護の質の向上に向けたリーダーシップを有する。 4. 地域の中にある論理的な問題に対して、権利擁護の視点から考え、専門職として向き合い、常に自身の行動を振り返って考えることができる力を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html ）
<p>（概要）</p> <p>専攻科地域看護学専攻では、教育目的に示した保健師と養護教諭一種（養護教諭二種免許状取得者のみ）を養成するため、以下の方針に基づいて、公衆衛生看護に関する基本的知識を、講義、演習、実習と段階的・系統的に応用し、実践力を獲得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護学概論を基盤として、対象理解とアセスメント、家庭訪問、健康相談、健康教育、保健計画、地域組織活動といった公衆衛生看護活動についての基本的な知識と技術を習得するための教育を実施する。 2. 公衆衛生保健指導論として母子・成人・高齢者・精神・障害者（児）・産業保健・学校保健といった分野別に、対象に応じた保健指導に必要な知識と技術を習得するための教育を実施する。 3. 対象を的確にとらえ、多様な側面から健康課題を明確にできる視点を養うため、疫学、保健統計学Ⅱ、外国語、情報科学Ⅲを設定し、集団や組織の情報把握、情報処理の知識と技術を習得するための教育を実施する。 4. 既修得科目を統合して対象地区の状況に合わせた公衆衛生看護を実践する力を養うために公衆衛生看護実践論、公衆衛生看護管理論、保健医療福祉行政論を設定し、行政の保健師の役割と地域ケアシステムについて理解を深めるための教育を実施する。 5. 個人・家族・集団・組織の支援実習、公衆衛生看護活動展開論実習、公衆衛生看護管理論実習を設定し、臨地において指導を受けながら公衆衛生看護活動を具体的に理

解し、倫理的な視点をもって人々と協働し、看護を実践するための教育を実施する。
6. 修士研究に取り組み、論理的思考力や表現力を高め、専門職としての自己教育力を強化するための教育を実施する。

上記 1～6 の方針のもと、獲得された学習成果を専攻科地域看護学専攻・学習成果査定の方針に基づいて客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.kochi-gc.ac.jp/university/policy.html>)

(概要)

専攻科地域看護学専攻では、卒業認定・学位授与の方針を達成するために、以下の人を入学者として求めている。

1. 個人・家族・集団・組織の健康状態を査定し健康課題の発見に努力できる人
2. 個人・家族・集団・組織の健康課題の解決に向けて熱心に取り組める人
3. 健康課題の解決に向けて他者ととともに取り組もうと努力する人

そのため、以下の準備が出来ている人を入学者として求めている。

1. 看護学の基礎的な知識と技術をもち、地域で生活する人々や地域全体の健康に関心をもっている人
2. 論理的な思考力を備え、人々の健康や看護に関する課題について探求する意欲のある人
3. 人々と協力しながら、理想に向かって主体的に学び続ける意欲のある人

以上の人材として、専攻科地域看護学専攻では入学するまでに次の教科・科目の知識・技能を有している人が望まれる。

◎教養教育科目：人間を理解する広い視野と学問を修めるための多角的視点

◎専門科目：医学・看護学全般に対する知識、知識と実践を結びつける論理的思考力、他者に説明する表現力

◎統合科目：既修得科目の知識を用いて実践を行うための、粘り強さや省察力

入学者選抜にあたっては、特別入試では看護学科において履修した科目の成績全般から看護学全般に対する知識や技術の習得状況を把握する。また、面接により、論理的な思考力や地域全体の健康への関心度、主体的に学び続ける意欲等について把握し評価する。

また、本学看護学科卒業以外の学生へも門戸を広げ、多様な背景をもつ学生同士が刺激しあいながら共に学べるよう一般入試を設定する。一般入試では、学力試験と面接、小論文試験を行い、看護学の基礎的な知識、地域で生活している人々や地域全体の健康への関心度、論理的な思考力、表現力、主体的に学び続ける意欲等について把握し評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.kochi-gc.ac.jp/img/university/H30jikotenken.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
生活科学学科	—	3人	4人	0人	0人	3人	10人
幼児保育学科	—	4人	3人	4人	0人	0人	11人
医療衛生学科医	—	5人	8人	1人	4人	0人	18人
看護学科	—	5人	3人	5人	1人	4人	18人
応用生命科学専攻	—	3人	6人	0人	0人	0人	9人
地域看護学専攻	—	4人	3人	5人	0人	0人	12人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		124人					124人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.kochi-gc.ac.jp/subject/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活科学学科	80人	46人	57%	160人	112人	70%	人	人
幼児保育学科	80人	76人	95%	160人	155人	96.9%	人	人
医療衛生学科	80人	75人	93%	240人	225人	93.8%	人	人
看護学科	60人	67人	111%	180人	209人	116.1%	人	人
合計	300人	264人	88%	740人	701人	94.7%	300人	264人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活科学学科	58人 (100%)	0人 (0%)	52人 (89.7%)	6人 (10.3%)
幼児保育学科	84人 (100%)	1人 (1.2%)	77人 (91.7%)	6人 (7.1%)
医療衛生学科	69人 (100%)	13人 (18.8%)	48人 (69.6%)	8人 (11.6%)
看護学科	54人 (100%)	17人 (31.5%)	31人 (57.4%)	6人 (11.1%)
合計	265人 (100%)	31人 (10.5%)	208人 (78.5%)	26人 (8.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
生活科学学科	62人 (100%)	58人 (93.5%)	0人 (0%)	4人 (6.5%)	0人 (0%)
幼児保育学科	88人 (100%)	82人 (93.2%)	0人 (0%)	6人 (6.8%)	0人 (0%)
医療衛生学科	85人 (100%)	62人 (72.9%)	7人 (8.2%)	15人 (17.6%)	1人 (2%)
看護学科	66人 (100%)	52人 (78.8%)	8人 (12.1%)	6人 (9.1%)	0人 (0%)
合計	301人 (100%)	254人 (84.4%)	15人 (5%)	31人 (10.3%)	1人 (2%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画の作成過程 「高知学園短期大学シラバス作成要領」に基づいて担当教員が作成する。 教務課チェック、教務委員チェック、教務部長チェックの第三者チェックを行い、不備なければ承認、不備があれば差し戻しを教務課から教務委員を通じて担当教員へ修正依頼する。 ・ 授業計画の作成時期 12月～3月末に作成。学生には、4月に冊子で配付する。 ・ 授業計画の公表時期 5月1日

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>高知学園短期大学では、各授業科目で到達目標（学習成果）を定め、その成績評価の基準を明確にして厳格かつ適正に評価している。その評価方法については、シラバスに記載し、学生へ周知している。特に、評価方法としては学則第23条に基づく試験やレポート等の具体的方法、またその評価に加え、学修意欲や授業への取組などに関する汎用的能力の評価を行い、その配分割合、および「どう学習すればよいか」が理解できる判定基準を具体的に記述している。成績評価基準は高知学園短期大学・学習成果査定の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいて各授業科目で定め、運用している。</p> <p>単位の計算方法については学則第22条に定め、授業を欠席した場合には学則に定めた時間を満たすべく補講を行うこととなっている。授業時間外に必要な学習内容と時間数についても、シラバスに記載して指導し、教育の質保証に努めている。学習の評価に関しては、学則第24条で基準を定め、その具体的な指標を高知学園短期大学・学習成果査定の方針で表明して実施している。</p> <p>卒業又は修了の要件は、短期大学課程については学則第25条、専攻科課程について</p>

は学則第 52 条に定めて運用している。

卒業及び修了については、学則第 41 条に基づき教授会で意見を徴収し、その結果に基づいて学長が認定している。

学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
生活科学学科	62 単位	有・無	1 学期間に 28 単位
幼児保育学科	62 単位	有・無	1 学期間に 30 単位
医療衛生学科 医療検査専攻	102 単位	有・無	1 学期間に 33 単位
医療衛生学科 歯科衛生専攻	100 単位	有・無	1 学期間に 25 単位
看護学科	103 単位	有・無	1 学期間に 26 単位
専攻科応用生命科学専攻	32 単位	有・無	1 学期間に 25 単位
専攻科地域看護学専攻	36 単位	有・無	1 学期間に 19 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)	公表方法 : 高知学園短期大学 F D ・ S D 活動報告書を本学図書館にて閲覧可能。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法 : http://www.kochi-gc.ac.jp/university/disclosure.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.kochi-gc.ac.jp/subject/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
生活科学学科	770,000 円	200,000 円	140,000 円	実験実習費、図書費
幼児保育学科	770,000 円	200,000 円	140,000 円	実験実習費、図書費
医療衛生学科 医療検査専攻	810,000 円	220,000 円	230,000 円	実験実習費、図書費
医療衛生学科 歯科衛生専攻	770,000 円	200,000 円	160,000 円	実験実習費、図書費
看護学科	770,000 円	20,000 円	210,000 円	実験実習費、図書費
専攻科応用生命科学 専攻	810,000 円	50,000 円	230,000 円	実験実習費、図書費
専攻科地域看護学 専攻	770,000 円	50,000 円	210,000 円	実験実習費、図書費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 担任制を採用し、困った時には相談に行ける窓口を設定。その他の教員もオフィスアワーを設定し、いつでも相談に行けるようにしている。学科によっては、ゼミ制を採用し、より少人数に1名担当教員をおいている。又、教務課も窓口となり、様々な問題に対応している。保健室、学生支援課等も連携を取り、学生支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ①人間的成長を目的としたセミナーの充実 ②将来設計や就職について、ITを活用しての情報発信 ③個別相談や個人指導の充実による将来設計の支援 ④学年・学科ごとの特性に合わせたキャリアセミナーの開催 ⑤キャリアデザインノートを活用したキャリア形成支援 ⑥教育課程にキャリア教育を根付ける取り組み 就職担当教員と学生支援課職員が共に必要な情報を迅速に発信し、個別面談、相談をし、対話を大切にしながら総合的な支援を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室が最大の窓口となり、学生の相談を聴いている。アセスメントが大切であるため、インテイク面談を大切にしている。(その他の窓口としては学生支援課に直接来る場合や、先生からの紹介で相談に来る場合もある。)そしてカウンセリング委員会で専門の教員等と連携を取り、ケースカンファレンスを行っている。主訴は何か、問題はどこにあるのか、どんな支援が必要なのか、教職員が一丸となって、学生の支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <http://www.kochi-gc.ac.jp/university/disclosure.html>